



狩野昌運筆 恵比須大黒図（部分）〔購入資料〕



第34回新収蔵品展

ふくおかの歴史とくらし

令和4年10月25日(火)～令和5年1月15日(日)

企画展示室1～4

開催にあたって

福岡市博物館は、開館の7年前(昭和58・1983年)に博物館建設準備室が発足して以来、考古・歴史・民俗・美術の各分野にわたる資料の収集を続けてきました。寄贈や寄託、購入によって収集した資料数は18万件以上にのびます。

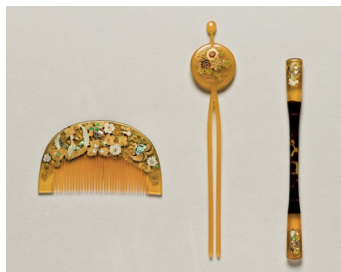
収集した資料を後世に確実に引き継ぐとともに、展示や研究に有効活用するため、当館では、新たに収蔵されるすべての資料について調査と整理を行い、そのリストを『収蔵品目録』として刊行しています。また、目録刊行にあわせて、博物館の資料収集活動を広く市民の皆様を知っていただくため、『新収蔵品展』を開催し、新たに加わった資料をご覧いただける機会を設けています。

34回目を迎えた今回は、『収蔵品目録』第37号に掲載した令和元年度収集資料3793件の中から「ふくおかの歴史とくらし」に関わる約80件の資料を厳選し、展示します。資料を見る際の心の動きから、「見入る」「祈る」「想う」「知る」という4つの章に分けてご紹介します。

本展の開催にあたり、貴重な資料をご提供いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。また、ご観覧いただいた皆様にとって、この展覧会がふくおかの歴史と人々のくらしについて、より一層の関心を寄せていただく機会となることを祈念するとともに、福岡市博物館の資料収集活動に、ご理解とご協力をいただける機会となれば幸いに存じます。

一 見入る

この章では、美術・工芸資料を中心に展示します。それぞれがもつ美しさだけではなく、その製作技術にも見入ることができます。



(上) 女性が身に着ける櫛・簪・笄。べつ甲製で、螺鈿や蒔絵が施される。昭和時代のもの〔坂本幸子資料〕



(上) 福岡藩4代藩主綱政以降、藩主の狩猟に関する世話をこころなう職務についた平井家に伝わった江戸時代の火縄銃。平井家の職務の証拠品として伝来した〔平井嘉樹資料〕



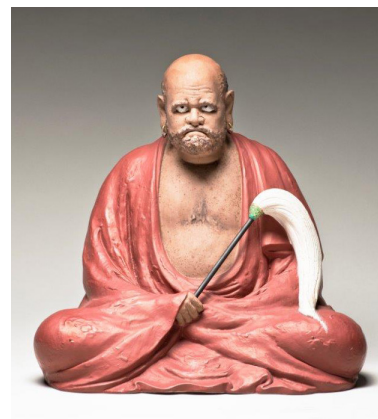
(上) 戦国時代、未備前物の短刀。刀身の表に「備前国住長船清光」の銘がある〔船津喜代子資料〕



(上) 桐山丹波所用の甲冑。金泥塗瓢箪の頭立や蟹鉞の脇立など、兜は豪華な仕立〔桐山恭二資料〕



(上) 寄贈者の父が所持した甲冑。兜の鉢巻の銘から江戸時代初期の関東に多い早乙女系甲冑師の作〔小川守資料〕



(上) 博多人形師原田嘉平の作で、背面に「面壁九年/達磨/人形屋嘉平/作」と銘がある〔吉村慶二資料〕



(上) 福岡出身の文人画家、中西耕石による「冬景山水図」。安政2(1856)年の作。中国元末の文人画の大家、倪雲琳の画風に倣った作品〔合屋翠雲堂資料〕

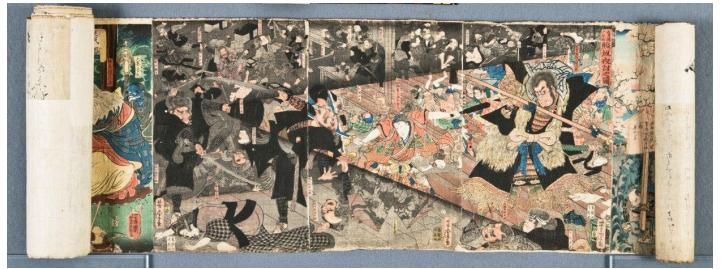
(左) 亀井少槩の書画。江戸時代後期の作。暗い竹林に伏す梅の古木から出た若く細い枝に、突如花が満開となる様を、自作の漢詩を添えて表した〔小野寺龍太資料〕

(右) 正月や慶事に使用された六曲屏風。寄贈者の祖父が経営した旅館に、宿泊者が宿代として置いていったもの。江戸時代後期の町絵師の作か〔富崎洋子資料〕

(右) 筑前四大画家の一人に数えられた桑原鳳井の「遊鯉図」。江戸時代後期の作。四条派らしい写生に真摯な姿勢で描かれている〔桑原益男資料〕



(右) 寄贈者伯母の収集品。幕末～明治期に摺られた3枚続きの浮世絵39枚が卷子装にされる。近代の個人による浮世絵受容のあり方を示す資料〔前田道子資料〕



(上) 中央区宇賀神社所蔵「お馬さん」の調査・修復に際して制作された精密な実測図。鑑賞絵画としても評価を受ける〔大串誠寿資料〕



(左) 西区金武の小堂に安置された石仏18点のうちの一つ。平たい滑石に如来形像が刻まれ、裏に治承3(1179)年に勸進僧良真によって供養されたと記される〔樋口家資料〕



(上) 中央区警固に鎮座する小鳥神社に奉納されたもの。赤色の八咫鳥を彷彿する朱塗に、金泥文字の神名が彫られた豪華な扁額〔宗教法人小鳥神社資料〕

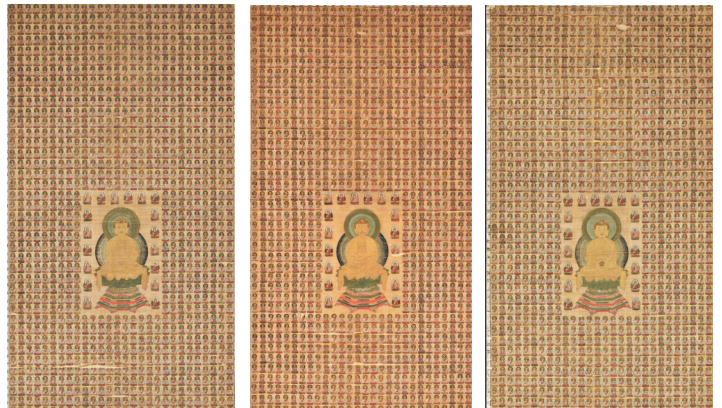
二 祈る
この章では、信仰に関わる資料を展示します。それぞれがもつ内面的な力強さのみならず、それぞれの資料が受け止めた人々の気持ちも伝わってきます。



(上) 戦国時代に秋月氏に仕えた坂田越後守を祀る朝倉市の上秋月神社のもと御神体の神像〔坂田立子資料〕



(上) 鎌倉時代後期の阿彌陀三尊来迎図。黒田家ゆかりの浄土宗寺院、中央区大手門円応寺の旧蔵〔藤永喜美子資料〕



(上) 過去・現在・未来の三世諸仏の名を唱えて国家の安寧を祈願する仏名会で用いる三千仏図。裏書から、文安3(1446)年に金剛仏子宗忍房が寄進したことなどがわかる〔青木富美子資料〕

三 想う

過去を想う、過去の人を想うきっかけとなる資料を展示します。過去の人々を何と考え、感じながら生活したかを示す品々も、大切な博物館資料となります。



(上) 寄贈者の父に授与された支那事変従軍記章〔進藤美穂資料〕



(上) 広島被服支廠で検品された昭和15(1940)年製の陸軍用毛布〔冨永美佐子資料〕



(上) 旧福岡藩士の家系、西明石家出身の軍人明石元二郎の肖像写真〔久芳和喜資料〕



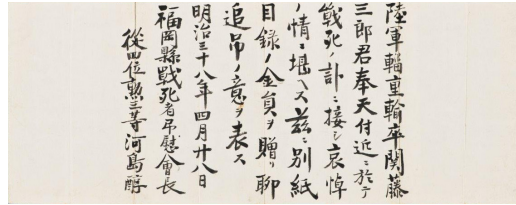
(上) 軍医として日露戦争に従軍した益田狭穂とその家族および友人の写真を収めたアルバム〔益田敏夫資料〕



(上) 福岡県立修猷館高等学校の制帽。昭和時代のもの〔小川俊資料〕

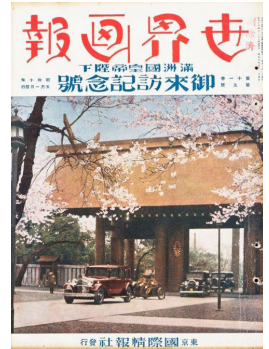


(上) 戦時期、海軍の下士官となった寄贈者の父が使用した帽子〔小山喜美子資料〕



(上) 明治38(1905)年に日露戦争で戦死した寄贈者の祖父に対し、福岡県知事で福岡県戦死者弔慰会長を務めた河島醇から送られた弔辞〔関義郎資料〕

(右) 国際情報社が発行した月刊誌『世界画報』。海外情報を含む当時の出来事を写真を主に報じた〔星野宜義資料〕



(上) 半田芳太郎製作の黒漆塗の重箱。大正7(1918)年の九州沖繩物産共進会で三等賞を受賞〔舌間輝吉資料〕



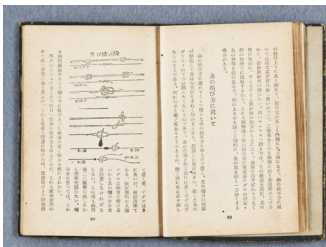
(上) 表に草履を貼った草履下駄。寄贈者が子供の頃に庭で遊ぶ際に履いていた〔笠置美枝子資料〕



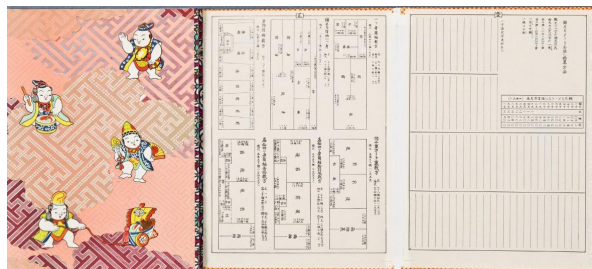
(上) ガラス実験器具などをつくる技師だった園田武利が作成した鼓形とタヌキ形の博多チャンポン〔松尾孝司資料〕



(上) 寄贈者の父が昭和戦時期に小学生の頃に描いた水彩画〔財部一雄資料〕



(上) 北九州市で釣具店を営んだ寄贈者の先々代が収集した書籍『四季のハヤ・ヤマベ釣り』〔林信博資料〕



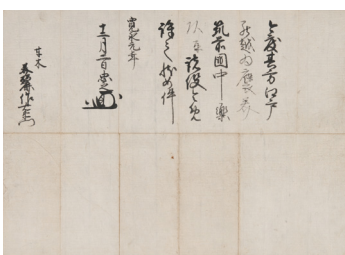
(上) 和裁用に生地を裁断・縫製したり、アイロン掛けなどを行う6つ折りのヘラ台。裏面に尺貫法とメートル法の対照一覧表や生地の裁ち方を図解した4枚の用紙が貼られている〔安松奈津子資料〕



(上) 寄贈者が昭和50(1975)年に撮影した花電車の写真〔牟田節子資料〕

四 知る

この章では、様々な記録や過去の道具を展示します。ふくおかの人や文化を知り、その記憶を未来に残していくべきことを強く感じさせられます。

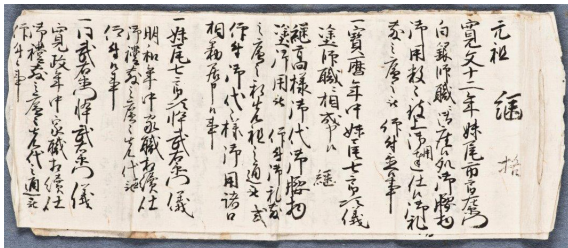


(左) 福岡藩2代藩主黒田忠之が美麗作右衛門重次を筑前国中津頭に任じた判物〔梅津忠弘資料〕

(下) 江戸時代に光月亭釣庶によって書かれた狂歌六首。狂歌とは社会や世相などを詠むもの〔二宮健資料〕



(上) 明治12年頃に10銭で購入された蓋付きの方位磁石で、十二支で方位が刻まれている。同様のものは江戸時代から明治時代初めに航海用具として使用された〔八尋シノブ資料〕



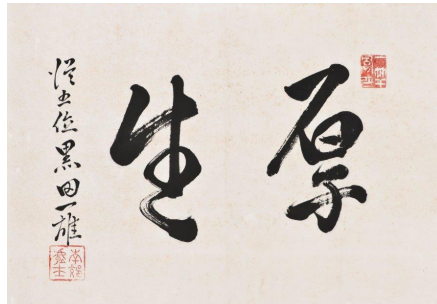
(上) 寛文12(1672)年から白銀師御用、宝暦年中から塗師となった妹尾氏が、藩から与えられた町人・職人の身分格式の証拠、扶持高、時々の褒美などが書継がれた記録〔妹尾俊見資料〕



(上) 天保11(1840)年、博多市中の町人などから筥崎宮に銅馬が奉納された際の献納金寄附者名簿〔購入資料〕



(上) 外科医の筆頭として福岡藩に仕えた塚本家に残された『重訂解体新書』、『解体新書』の修正版〔塚本家資料〕



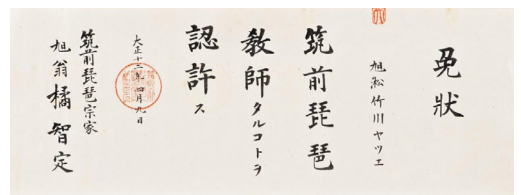
(上) 明治期の三奈木黒田家の当主黒田一雄の書「厚生」。安陪庄作に感謝をこめて送ったもの〔安陪光正資料〕



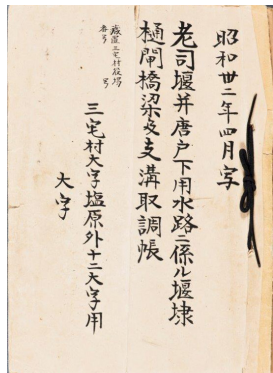
(上) 旧福岡藩主家侯爵黒田長成の書。「天空海闊」とは、度量が大きく何のわだかまりもないこと〔石橋延枝資料〕

(左) 早良郡西新町の出身で、士族結社玄洋社の設立に参画した頭山満の一行書「運用之妙在一心」〔郷司澄子資料〕

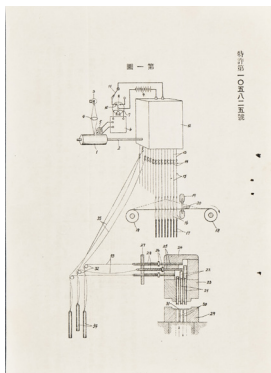
(右) 「筑前琵琶宗家」を称する旭会の橘旭翁会長より寄贈者のおばが受けた教師免状〔竹川英次郎資料〕



(上) 昭和20～40年代を中心に活動した在野の考古学者で郷土史家の高野孤鹿が残した、考古資料を中心とする拓本カード集〔石田琳彰資料〕



(上) 老司井堰(17世紀初頭築造)から取水された用水路係の堰煉に関する取調帳〔長沼元資料〕



(上) 博多織業を営んだ中西金作が発明した電気紋織技術に関する特許証〔中西裕子資料〕



(上) 昭和50年代頃まで生産された野間焼の製作で使用された蹴りロクロ〔吉原章資料〕



(上) 博多祇園山笠・大黒流の須崎町二区に大正時代から伝わる台幕。題材は江戸時代に流行した「雀踊り」で、編み笠を被って雀のしぐさを真似て踊る侍が描かれる。山笠の際、町の詰所の周囲に張り巡らすなど、町のシンボルとして親しまれた〔大黒流すの二(須崎町二区)資料〕

福岡市博物館 千八四一〇〇〇一
福岡市早良区百道浜三丁目一番一号
☎〇九二一八四五五〇一一

- ご協力いただいた方々
(寄贈・寄託者名/順不同 敬称略)
- 青木富美子 安陪光正
 - 石田琳彰 石橋養親
 - 妹尾俊見 大串誠寿
 - 小川國照 小川俊
 - 小野寺龍太 笠置美枝子
 - 桐山恭二 久芳和喜
 - 桑原益男 郷司澄子
 - 合屋善克 小山喜美子
 - 坂本幸子 鹿田美佐子
 - 舌間輝吉 篠原耕造
 - 進藤美穂 鈴木久美子
 - 関義郎 財部敬子
 - 竹川英次郎 塚本潔
 - 富崎洋子 富永美佐子
 - 長澤正信 中西啓太
 - 長沼元 西村順子
 - 二宮健 林信博
 - 樋口巖 平井嘉樹
 - 藤永喜美子 船津喜代子
 - 星野宜義 前田道子
 - 益田敏夫 松尾孝司
 - 牟田節子 安松奈津子
 - 吉原章 吉村慶二
 - 宗教法人小鳥神社宮司前田安文